

旭と葛飾を繋ぐものー

防災教室と地域の交流  
葛飾区郷土と天文の博物館  
学芸員 博士（環境学）



橋本 直子

|                                     |                      |
|-------------------------------------|----------------------|
| 発行                                  | 編集                   |
| Tel 旭市上永井一二二七<br>& Fax 0479(57)5769 | 特定非営利活動法人<br>NPO 光と風 |

「しょう！」と決めました。

一〇月に開催した「東京低地災害史」では、この時計は多くの来館者にメッセージを与え続けました。会期中は二度にわたり飯岡から館にお越しください。飯岡の体験談を聞く会も開きました。さらに来館された方々から現地に行つてみたいという声も多くあり、翌年五月最初の飯岡への訪問が実現しました。二回目は津波避難タワーに上り、今年は仮設住宅体験ができました。と、博物館の活動は静的なものと思われがちですが、展示をさっかけに共通の場を設け、今起こっていることを共有することができています。おいし、いふ幸弁当をいただきます。おいし、いはまた来年の飯岡の姿に思いをはせています。

「あの日を忘れない」  
語り継ぐ私の三十一

避難所の名簿に妻の名がない！

竹内和夫さん（西下町）



あの日、仕事先で大地震に

「早めの避難にまさる防災なし」

語り継ぐ・仲條富夫さん

＊十一月五日  
は津波防災の日

## 投稿作品募集

震災体験、古里への思い、復興への提言、等。四百字にまとめたハガキや封書で応募下さい。掲載させていただいた方に薄謝進呈。氏名、住所、電話番号を明記して、「NPO光と風」まで。



# 自然から学ぶ ことも防 災キャンパス

参加者募集中



## 第一回親子で防災キャンパス体験教室

地震で電気・ガス・水道が止まったらきみは大丈夫？役に立つ知識、使える工夫がいっぱいのキャンパスで遊ぼう！

対象 小学生含む家族八組  
場所 旭市海上キャンプ場  
参加費 一人一〇〇〇円  
指導者 船倉武夫氏(千葉科学大学教授)他

## 第二回早朝の白鳥ウォッチン

冬、白鳥は旭にやってきました。飛んでいく様子や、田んぼで何をしているか観察してみよう。白鳥に会いに行ってみよう。

二〇一六年一月一日(月) 午前七時一〇時  
対象 小学生と家族三〇名  
場所 県立東庄民の森  
参加費 一人五〇〇円  
指導者 齋藤敏一氏(元大利根博物館研究員)他

## 第三回春の森と海・ぼうさい探検隊

飯岡の刑部岬に行ってきました。とある？屏風が風・光・水・波をのびのびと表現しています。地層の時間をかけてえい、うさぎの探検隊で森と海を探検してみよう。

二〇一六年三月二〇日(日) 一〇時一五時  
対象 小学生と家族三〇名  
場所 九十九里浜、屏風ヶ浦  
参加費 一人五〇〇円  
指導者 安藤生大氏(千葉科学大学教授)他

主催 NPO法人・光と風 共催 NPO法人みどりの ネットワーク千葉 (株)塚原緑地研究所  
問い合わせ・申し込み NPO光と風 0479-15715769 (平日一〇時一六時)



## 震災から五年目の夏 旭いおかの海

旧いおかの海が新しいおかの海として七月に全面オープン。隣接する防災資料館は、開館以来、入場者数が一万人を超え、人気だ。まだまだ震災前には届かないが、少しずつ観光客が戻りつつある。

## 海水浴客数

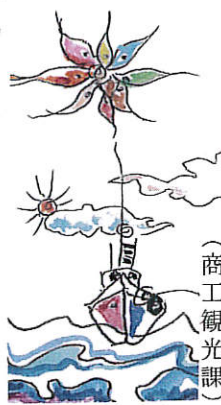
\* ( ) は昨年の数



飯岡海岸 一七九二人 (八二五八人)  
矢指が浦海岸 一〇七七人 (二二〇四五人)  
市営プール入場者数 七〇九五 (六四七八人)

## サイフィン客数

二〇一三年 五九八八〇人  
二〇一四年 六二、一八〇人  
防災資料館入場者数  
開館九月末、一〇九七人 (商工観光課)



## 地元で頑張る

「若い事業者たち(1) 大型店には負けない!」  
飯島隆太さん 三四歳 (株)広屋 常務(旭八)



広屋のご先祖は紀州(和歌山県)広村からの移住者で、創業から一三〇年以上という老舗である。この老舗の長男である隆太さんは、小さい頃から店の跡継ぎとして期待されてきた。大学卒業後は家族と商店街の仲間の待つ地元へ。この商店街の間にたちと繋がり、大きな力になったと振り返る。今は得意のパソコン技術を生かしてオリジナル商品の開発に力を入れている。お客が安心して利用できるものをきめ細かく、大型店に負けないと胸を

## トピックス

被災者の「憩いの場」に！  
食堂 「憩い」

はる。\* (株) 広屋 洋品店  
婦人・紳士服、スクールウェア、作業着、各種プリントタオル他。「あさひ道の駅」にも出品。  
Tel 0479-62-0126



東日本大震災で大きな被害を受けた旭いおかの地区に、仮設住宅が完成したのは平成二三年の五月。心も体も疲れ切った被災者の皆さんに、豊饒な部屋をゆつくり足を伸ばせる場所を提供したいと、その年の一月に開店した。女性四人で始める予定だったが、今は石毛しづえさんが店主となつて頑張っている。安くて家庭的な味が楽しめるよう、値段は全てワンコイン(500円)とした。カツ丼や各種定食も五百円とは驚きである。来店したお年寄りのお客さんの注文を聞きながら、体調を気遣う会話が楽しい。なお、グループでの会食は予算に応じて用意できる。  
営業時間 十一時半〜十七時  
場所 飯岡支所となり(萩園)  
Tel 0479-15715720



防災キャンプ体験

海上キャンプ場、飯岡刑部  
岬展望館コーデイナータ

（指定管理者 塚原緑地研究所）

すといに道路は水があふれ流れ  
 始めてうの道で再び工場の  
 始めていたのを父が見て「津波がくる」と引  
 戻っていた。海を。心配の人も高台に  
 は避けた。し。近所の人もし、戻つて家  
 伝つり難たらが、少し乗せ一人手  
 きりで。祖父兼工場に署のり、寝た  
 あたりの自宅大震災に遭つた。の  
 前



「あの日を忘れない」  
語り継ぐ私の三・一一

今度地震があったら：  
捜さずに決めた場所へ！  
千本松伸太郎さん（本町）

いは、このように、参加者は皆、楽しんでいました。しかし、参加者は、買っただけで、いまだに、も、自ら被災者である語り部も、危機管理の専門である大学。教授も、又、楽しんでい

|                                                   |                          |
|---------------------------------------------------|--------------------------|
| 発行                                                | 編集                       |
| Tel 旭市<br>& Fax 市上<br>0479 永井<br>(57) 二二七<br>5769 | 特定非常<br>NPO 利活動法人<br>光と風 |

悔しいが仕方なかった！  
西 広樹さん（香取市）  
元「海響」（うみなり）勤務  
私は二〇〇八年以降、飯岡  
地区（下永井）で開業してい  
た和風レストラン「海響」に  
勤務していた。

てきた瓦礫でいっぱいだった。寝たきりの祖父をどうしたらいいか迷ったが、近頃の施設に電話したら、一時的に預かってくれるところがある。津波が壊れた機械類は全部使えなくなっている。父はもう工場をやめた。妻はこの二週間後に無事出産した。自分、家族の為にあったが、今は家族を頑張っている。今度地震があったら、携帯に頼らず家族で決めた場所を集めることにしている。

露したことです。生死を分けるような体験ではなくとも、愛する者を家に残しては避難できず、自らも家に留まった人や、職場に留まるべき立場と自覚しつつ、けれど家族の安否を案じるばかりに同僚に詫びつつ職場離脱した人など。その時の葛藤を背負ったまま年月が経つたのです。話した事が良かっただけです。ようか。一参加してくれました。

今年も十一月七、八日、防災体験キャンペーンの開催を準備中です。

戰後七十年

あの日を忘れない

飯岡駅 海上ふれあい館

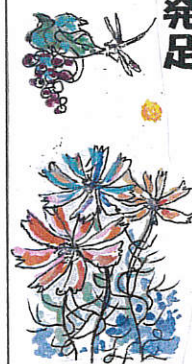
八月一日、十五日

今年（1970年）は戦後七十年という節目の年。戦争の悲惨さ、愚かさを知って欲しいと、「退職女性教職員の会」が企画した。スタツポ「日用品や資料の展示」とどまらず、生々しい戦争体験の語りや朗読に、たくさんの人達が会場を訪れていた。



けつにのかが 夫を外心こたさりい  
 れた大い冷も一翌なしにかかる。んにたあ  
 どのきた蔵ひ五日のて出らか自に強。の  
 仕かいの庫つ〇店のかいるす分分はい午日  
 方もし被にがく彳に「近とぐかたす揺後も  
 なれで驚公返らて「逃所避な従にだ時常  
 かつない建たまて入ると、げの難い業帰つ四通  
 た。は。でいつと、なく人をと員った六り  
 悔難あ流たて、て立めう何もで、業  
 ししまさ。何津  
 いかりれ店も波

# 「高橋順子を囲む会」が発足



「NPO光と風」は、大震災以降、震災の記憶を次世代へと語り継ぐこと、そして復興をまねく取り組みをすすめることを目的として、高橋順子さんを囲んで、詩・文・絵・音楽など、多岐にわたる活動を行い、その成果を発表する場として、高橋順子さんを囲む会を発足させました。本会を足

高橋順子さんの略歴  
一九四四年飯岡町(現旭市)の生まれ。県立飯岡高校、東京大学を卒業。詩人。夫は直木賞作家・車谷長吉さん(故人)。一九七一年「時の雨」で読売文学賞、一九八四年「海」で藤村記念歴程賞と三好

本会の趣旨に賛同し会員となつて協力してくれ方を募集しています。問い合わせは「NPO光と風」まで。

## 七月の防災教室

語り部の体験談に感動！  
公益財団法人 日韓文化交流基金 韓国青年訪問団

達治賞を受賞。四年前の震災津波被害を受けた。子ども達も順子さんの飯岡の海とまちを愛し、残す古里への思いを詩やエッセイで表現しています。

七月十七日  
名が韓国の大学生を中心として、一行は旭市に訪れた。七日間の事業に参加した人たちは、交流事業に訪れた。旭市は、復興の様子を知るため訪れた。旭市は、復興の様子を知るため訪れた。旭市は、復興の様子を知るため訪れた。



## 海上キャンプ場で非常食調理体験も

学校法人・女子学院

七月三十日、八月一日  
十三名の中高生が、二泊三日の交流に参加。海上キャンプ場で非常食調理体験も。

いおかのジョパーク・刑部岬を見学、海上キャンプ場で非常食調理して昼食にする体験もした。  
参加者の感想  
「辛い経験を語ってくれた。ありがとうございました。話を聞いた責任があることを感じました。また、被災者になる可能性が誰にもあることを改めて知らされました。」(安戸尚子さん)



## いいおかYOU・遊フェスティバルに三万人集まる

(実行委員会発表)

今年も飯岡海水浴場とその周辺を会場として、旭市いいおかYOU・遊フェスティバル2015が開催された。一日目の七月二十五日(土)はステージショーや海浜花火大会、二日目は宝さがしやビーチバレーボール大会が行われ、大盛況であった。  
実行委員会の調べでは、観客数は昨年より一万人ほど増加しているという。



## 旭市九十九里海岸二〇〇〇本植樹祭に参加しよう！



アサヒビール(株)からの寄付金による「千葉の海岸保全・再生活動支援金」の一環で防風林の再生活動として実施します。  
期日 十月二十五日(日)

場所 旭市野中字浜地3254付近(約4000㎡)  
苗木 クロマツ、広葉樹(計2000本)  
主催 公益財団法人・千葉県青少年協会  
後援 旭市、花と緑で旭を元気にするプロジェクト  
問い合わせ NPO光と風

## 読者投稿作品



荒井三知乃さん(八木)

\*投稿作品を募集しています。  
詩、エッセイ、俳句、短歌、絵、紙、川柳、他。ハガキに氏名、住所、電話番号を明記して「NPO光と風」まで。



# 「いいおか潮騒ホテル」 「コスタリコ」オープン



旧「いいおか」を改装し再開を  
目指す「いいおか潮騒ホテル」  
は、一階部分で「コスタリコ」  
「コスタリコ」をオープンした。  
(十一時～十五時まで)。  
「コスタリコ」とは、南米コ  
スタリカの光輝く明るい海岸  
をイメージした名前だという。

飯岡地区のシンボリック存在だ  
った同施設の一部再開は、震  
災以来誰もが待ち望んでいた  
だけに、ホテル側も「地元を  
愛される、地域一番の店を目  
指す」と意気込みも大きい。  
六月二日に日帰り温泉施設  
をオープン。また七月一八日  
には宿泊を含め全面リニューアル  
オープンする。

日帰り温泉料金  
大人六〇〇円子ども三〇〇円  
宿泊料金  
7/18、31、8/17、9/5日  
一七〇〇円(和室)、  
一〇九〇〇円(洋室)  
8/1、16日  
一七〇〇円(和室)  
一〇九〇〇円(洋室)

別に入湯税一五〇円が必要  
問い合わせは同ホテルTEL  
0479(85)6677

## 防災教室

自然の脅威に対する心構  
えを学ぶ

社会福祉協議会川戸地区部会  
(千葉市) 六月六日

昨年は東北の被災地を見学  
したが、県内にも被災した地  
域があると知った。防災資料館  
を訪ねた。避難タワーを見学  
し、最後に語り部さんのお話  
を聞き、津波に対する心構え  
を学ぶことができた。

## 七月の防災教室(予定)

七月十七日(金)

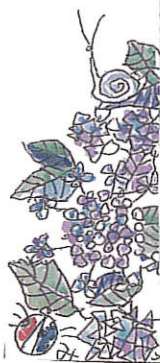
日韓文化交流基金七六名

七月三十日(木)

学校法人女子学院六〇名

七月三十一日(金)

多古町コミュニティプラザ  
紙芝居・語り部の出張教室



語り部「いいおか津波」

紙芝居「まいくん、がんばれ」(劇団ふく)

母会「みんなの家」で公演

(五月三〇日)

紙芝居「まいくん、がんばれ」は、東日本大震災の時、旭市「いいおか」で被災した小野さ

旭市観光物産協会の設立

親子の基づいたお話  
です。まいくんは障害があり  
ますが震災にめげず、助かり  
た命に感謝しながら一生懸命  
に生きています。姿が感動的  
な紙芝居は震災の現実を分  
かりやすく語り継ぐ活動とし  
ても注目されています。  
問い合わせはNPO光と風  
TEL 0479(57)5769



まいくんと  
母さん

## 旭市観光物産協会の設立

「旭市観光協会」と「飯岡  
観光協会」が一本化して、  
市観光物産協会(会長・飯  
岡忠直)が設立され、旭市  
で、海上、干潟には各支部  
の魅力を、今後は旭市全体  
提供を実現し「観光客の誘致  
と「物産の販売・普及」を一  
体的にすすめる。地域の活性  
化をめざします。

## 「磯がきまつり」始まる

六月一日から八月まで  
飯岡宿泊組合

旭市の飯岡宿泊組合に加盟  
する民宿など四店舗で、恒  
例の磯がきまつりが始まった。  
今年で二十回となり、地域に  
定着して毎年この時期を待  
て訪れるお客も多い。濃厚で  
天然の磯がきは味が濃厚で  
とてもおいしいと好評である。



ここ数年はとれる量が減って  
仕入れ価格が上がっているが、  
組合では料金を据え置いて提  
供している。かき釜飯、生か  
き、焼きがきなどの昼食セッ  
トで三二四〇円(税込)。  
問い合わせ・予約は同組合へ  
TEL 047915714248



投稿作品を募集しています。  
俳句、短歌、詩、エッセイ、  
絵手紙等。ハガキで応募して  
ください。氏名、住所、番  
号を明記してください。  
宛先 旭市上永井一七  
NPO光と風

## 読者投稿作品

俳句  
超えて来し峠いくつや若葉  
風  
灯さるる夜半に色づく菰か  
な  
百歳にある間あらぬ間うら  
わ風 宮崎富士子(飯岡)

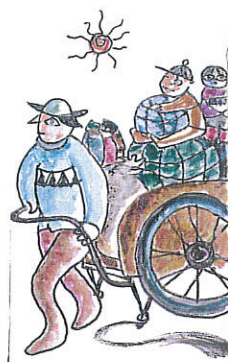
## 短歌

彩さんと共に受賞の嬉しさ  
よ 桜まつりの詩歌大会  
罹災の身ひたすら耐えし彩  
さんの 復興めざましき萩園  
住宅 山田純子(市内)



# 津波避難訓練でリヤカーを活用

三月八日  
広網町(飯岡)



飯岡地区・広網町は震災前は二軒全戸が浸水し、現在は二軒の方や全壊して今は更地になった。区長は「小林雄さんの家は床上まで浸水した。今回は旭市から使って避難訓練に参加した。三月八日、津波避難警報(訓練)がでると、前日に用意したリヤカーを押して近所の高齢者の家に行き乗ってもらった。小雨の中、妻は後ろを押して早く避難所の飯岡小学校へ。段々使ったことがないし、二輪車なのでもしは早歩きで一人を背負うより、早歩きで一人と話して、早歩きで一人を継者がいない家庭が増え、若者や高齢者が一人暮らしの高齢者が多い。活用の一つかもしやれない。

## 災害伝承の「語り部」各地で講演活動

総務省消防庁の「災害伝承」旭市の「語り部」事業として、旭市で講演活動を行っている。

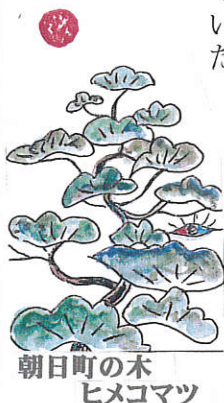
岡山県岡山市で講演  
高橋進一氏(いいおか津波を語り継ぐ会副会長)

岡山市は比較的災害の少ない所。岡山市民の防災意識の高揚を図りたいと企画した。高橋さんは、東日本大震災の体験を語ると共に、そこからの教訓をどう生活に生かすか、災害に対する日頃からの心がけについて講演した。

富山県朝日町で講演  
平澤つぎ子氏(旭市赤十字奉仕団)

三月二八日

富山県朝日町は富山湾と白馬岳に挟まれた人口一万三千人の町。過去の大きな地震や津波被害はなかった。地震や津波を経験した方々の話を聞き、防災に備えたいと企画した。近づく避難所は被災者への奉仕活動をしてきた被災者への奉仕活動。避難所では被災者への奉仕活動。避難所では被災者への奉仕活動。避難所では被災者への奉仕活動。



朝日町の木 ヒメコマツ

## 地域コミュニティ活性化支援事業 成果報告会

三月二十四日(千葉市)

千葉県地域交流課が行っている「地域コミュニティ活性化支援事業」の成果報告会に、五団体が参加した。1、平郡ツリーズム協議会(南房総市) 2、ちばのWA! 東葛本舗推進協議会(我孫子市) 3、流山新市街地地区・安心安全まちづくり協議会(流山市) 4、銚子青年会議所、NPO法人BeCOMなど(銚子市) 5、いいおか津波復興プロジェクト協議会(旭市) 旭市からは、東日本大震災からの復興を目指し、地元住民・企業・行政などの取り組みを報告し、高い評価を受けた。



## 食のちばの逸品2015

金賞を受賞

商品名「いいおかメロンジエラート」ホム・オフ・マザース(旭市、井戸野)

ホム・オフ・マザースは平成九年にオープンした。もともと酪農家で、今も百頭の牛乳を飼育している。その牛乳を使って、アイスクリーム(エラート)を店頭で用意して

## トピックス



江戸後期浮世絵版画展として英泉、広重、国貞のおんな二十点が、四月一日から五日の二週間、海上ふれあい館(JR飯岡駅)で展示された。作品を所蔵し出品したのは石田禮子さん(旭市三川)で、ほかに浪川志げさんが二点贊助出品。

期間中の土、日には服部幸子さんによる朗読会も行われた。朗読作品は浮世絵を題材にした、藤沢周平の二つの掌篇。服部さんの情感豊かな朗読と、嶋岡峰和さんによる三味線演奏も加わり、会場は大変賑わった。石田さんは浮世絵の素晴らしを知ってもらおうと、次回展示も考えている。

飯岡の特産「貴味メロン」はユールとミルクの絶妙なコンビネーションで、ククリミミミエラートが、高く評価された。七月オープン予定の「旭道の駅」でも出品が決まっている。047916215521





思いやりと絆をもつて  
全国広域連携市議会 副会長  
旭市議会 議長 景山岩三郎

復興かわら片反  
いいおが津波。

|                                                   |                          |
|---------------------------------------------------|--------------------------|
| 発行                                                | 編集                       |
| Tel 旭市<br>& Fax 市上<br>0479 永井<br>(57) 二二七<br>5769 | 特定非常<br>NPO 利活動法人<br>光と風 |

る老人がいて、大急ぎで自転車で入  
って来た。中、必死に町内を見て  
暗闇の中、幸い怪我人もなく皆  
無事なことを確認できた。

に夜明けと共に、地区の区長  
の依頼し青年部を集め、海岸  
の瓦礫の撤去作業に取り組ん  
だ。様変わりした海岸沿いの  
情景が今でも目に焼き付いて  
いる。地区民全員の協力によ  
り、復旧に励んだことを今も忘  
れることはできない。このこ  
とが地元住民の結束と絆をよ  
りと一層深め、復興への原動  
へと繋げることができた。

震災後四年となりますがこ  
れからも、議会と市と住民の  
皆様が結束し、全員で復興と  
災害に強いまちづくりを努め  
ていきたいと考えています。

「あの日を忘れない」  
語り継ぐ私の三・一一

家が北に一<sup>トル</sup>沈んだ！  
金井己知雄さん（後草）



自 宅 兼 店 舗 に 引 返 し た 。 到

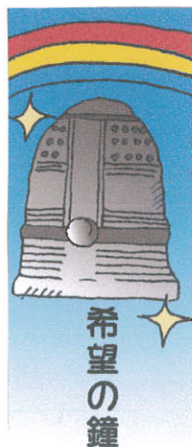
着してすぐ二度目の地震に遭  
 った。入り口が陥没して従業  
 員が外に出られない騒ぎだっ  
 たが何となく裏から脱出した。  
 敷地内のあちこちが地割れし  
 て水が噴き出した。浄化槽や  
 地面が持ち上がり、とにかく  
 恐ろしかった。  
 気がつくとも家が大きく傾き  
 北側に一対も沈んでいた。液  
 状化による全壊だった。一瞬  
 一これはもうダメだ!」と思  
 った。けれど、知人が「これ  
 は直るよ」と言ってくれたし、  
 後継者もいたので、「やるし  
 かない」と決断した。  
 友人や行政の支援もあつて  
 その年の六月に再開。まだ不  
 安はあるが人との繋がりを大  
 事にしてがんばってゆきたい。

夫の愛した家を終の棲家と決めた！



小菅恵子さん（下永井）

岡前は住まいは東京にあるが、飯  
年前に夫の実家のまあた場所一  
カンドハウスの建て、夫や友  
人と楽しい時を過ごした。そ  
れが震災で津波の直撃を受け  
ほぼ全壊。窓は粉々に壊れ床  
は真つ黒な海泥が数十センチ  
もついていた。病気がちの夫は  
相当なショックを受けていた。  
はその夫も亡くなり、ここに住  
は修理したもので、ここに住



会場にテント設営（地元特産品の販売、甘酒無料）忘れ時の時計（実物）献花台、記帳台の設置、希望の鐘、紙芝居、コーラス、主催「3'11語り継ぐいいおか津波の集い」実行委員会駐車場、トイレなど。の用意はありません。

二〇一五年  
東日本大震災四周年  
「旭・いいおか津波を語り継ぐ」集い

むか迷いはあつた。けれど先祖の墓もあるし、何より夫が大事にしていた家なので思い切つてここを「終の棲家」と決めた。今はたくさんの友人もでき、三月には被災した知人の店先を借りて小さなショップを開く予定（裏面で紹介）

(二月十七日)

今回は島根県浜田市からの要請があり、「東日本大震災の体験談」というテーマで講演をおこなった。

浜田市は人口約五万七千人  
 で、日本海に面した穏やかなまち  
 だったという。しかしこれから  
 も災害がないとはいえない。  
 もしもの時を想定し住民同士  
 の横の繋がりを築くと同時に、  
 被災したまちに対してどんな支  
 援ができるかを考えている。  
 仲條さんは、今回の震災で  
 津波に襲われ九死に一生をえ  
 た自らの体験を説明すると同  
 時に、そこから得た「**早めの  
 避難に勝る防災なし**」という  
 教訓を、集まった市民に何度  
 も強調した。

＊語り部さんのお話を聞き  
 た人は、「NPO光と風」  
 へ申し込んでいるのださ  
 い。但し  
 十名以上。  
 申し込みのグループでお願い

君津市小糸婦人会

小糸さん、旭市を訪問した。が二月一  
 日、津波避難タワーを見学  
 した。その後、飯岡刑部岬展望館で  
 語り部（小野芳子さん）から  
 被災した当時の生々しい体験  
 話を聞いた。涙ぐむ人もいた。  
 支援金は復興基金（100万円）が  
 害から復興をとまた津波被災  
 工場の復興を支援する。また、山  
 のシラスやお菓子さん、民芸品な  
 いどのお土産も多数購入して頂  
 知った。身近な被災地をもつと



受賞報告会  
(二月五日)

のまちづくり行政を市民の皆さ  
の各団体の成果を上げたとし  
て、一花と緑で旭を元気にす  
るプロジェクト協議会（会  
長・戸井穰）がちばコラボ大  
賞（県知事賞）を受賞した。  
その報告会が飯岡保健センタ  
ーで行われた。

当日は、旭市立飯岡中学校  
二年生八十八名によるコーラ  
「二」地球唱歌の笑顔のため  
「一」が披露され会を祝つてく

れた。なお、当活動にご協力  
 頂いた次の方々に感謝状が贈  
 られた。(敬称略)  
 団体―飯岡中学校、飯岡小学  
 校、三川小学校、花千、三協  
 土木、東総工業高校、岩岡園  
 芸、菅谷造園、木更津それが  
 どうしたチーム、かずさ萬燈  
 会、千葉県青少年協会、NP  
 ○法人―黄河流域に植林の会  
 個人―大八木陽、山本繁、伊  
 東一直、石井力弥、土屋健一、  
 齊藤弘昌、酒巻きみ子、長谷  
 かね、他。

「まーくん、がんばれ」

「劇団ふく」（NPO光と風）では、震災を語り継ぐ活動の一つとして防災紙芝居の活動を続けています。今回、旭いおかで被災した小野さん親子の実話に基づいた紙芝居「まーくん、がんばれ」が完成し、二月五日のちばコラボ大賞受賞報告会で上演された。

飯岡宿泊組合

旭市の飯岡宿泊組合に加盟する民宿四軒で、恒例の「飯岡あんこう鍋祭り」が始まった。今年で第一六回を迎える。銚子漁港で水揚げされるアンコウは二、三月が最盛期。名物はアンコウの肝を鍋でかぶ煎りし味噌だしを加えたどぶ汁仕立て。濃厚な味わいは



一度食べると誰もが驚くほどの旨さで、毎年この時期を待つて訪れる客も多い。

渡邊組合長は「多くの人に訪れてもらって東日本大震災からの復興につなげたい」と話す。予約が必要で三月末まで。

TEL 0479-5714248



この活動で得た売り上げで運営するボランティア活動です。人と関わることは何より自分を元気にします。皆さん、是非参加してください。

当面の活動は＊手作り品の販売、フリーマーケット（寄付されたもの）、ミニギャラリ―（絵や写真・その他の展示）  
定休日 日曜・月曜  
場所 旭市横根166（元尾上青果店）

東京から夫の生家のある飯岡に移住した小菅恵子さん。「住み慣れた地域でいつまでも元気に暮らし続けたい」という思いにから、若者も高齢者も気軽に話せる居場所を目指してオープン。

「菜の花」  
三月一日オープン



2014 ちばコラボ大  
賞を受賞して  
花と緑で旭を元気にするプ  
ロジェクト協議会  
会長 戸井 穰

復興かわら版  
いゝおが津波。

|                                         |                      |
|-----------------------------------------|----------------------|
| 発行                                      | 編集                   |
| Tel 旭市上永井二二七<br>& Fax 0479<br>(57) 5769 | 特定非営利活動法人<br>NPO 光と風 |

と感謝しております。

訳めれのル組が縁くり  
 で活るとなみ連団等  
 であ動もなる成携体  
 りますがのる果しや  
 す。事これで、優をて行  
 表これ、れた上地政  
 彰に、一たげ域機  
 の該一花事ての関  
 栄当と例、課  
 にす緑一他題  
 輝るとPにの  
 いた認J「贈  
 した認「ら  
 した認「ら

今回の受賞を機にさらに被災地旭に一人でも多くの方々の笑顔を取り戻せますよう花を一杯咲かせて、被災から復旧そして復興へ向けて一歩一歩頑張つて参ります。ご支援とご協力をお願いいたします。

\*コミュニティガーデンの場所は次の十箇所です。

① いいおか莊プール前  
② 八軒町 ③ 西下町  
④ 飯岡小学校 ⑤ 飯岡中学校  
⑥ 三川小学校 ⑦ 遊歩道  
⑧ 海津見神社前 ⑨ 妙見様下  
⑩ 仮設住宅、各ガーデン

ーあの日を忘れないー

語り継ぐ私の津波体験

行方不明の夫に会いたい！  
鈴木重子さん（八軒町）

大地震の日、夫（松さん）当  
 時七六歳から先に避難する  
 ように言われ一旦は避難した

が四時すぎに津波は終わった  
 と思いきや、突然、  
 天まで届くほどの真っ黒な津  
 波に呑み込まれ、どうやって  
 助けられただろう、覚えてい  
 ない。同じころ、店の前の電  
 柱にしがみついている夫を隣  
 人が見たという。直後に自宅  
 もろとも押し流され、三年以  
 上たつた。今も夫の行方はわ  
 からない。  
 夫は誰にでも親切で優しい  
 人だった。夫の最後を覚えて  
 いないので、まだどこかに生  
 きているような気がしてならない。



鈴木崧さん

真っ暗闇の中で救助活動！  
旭市消防本部 消防署  
第二小隊長・小林祥康さん

消防車が津波で横転  
大津波警報の発令を受け、  
消防車で四人の隊員と共に海  
岸（足川浜、中谷里浜）に向  
かつた。十五時四十四分に約  
五十名の津波を確認したがそ  
の数分後に約一キロの津波が寄  
せてきた。海岸にいた住民に  
避難を呼びかけた後自分たち  
も避難を始めたが間に合わず、  
車ごと津波に押し流され横  
転。一瞬気を失った感じだつ  
たが車内に入ってきた海水で  
意識を取り戻し、全員で車の  
上に這い上がり助かった。

暗闇の中、救助に向かう  
その後消防本部に戻ると、

十七時二十分の大津波の後、  
本部に次々と救助要請が寄せ  
られた。隊員十二名で飯岡に救  
助に向かった。柱が潰れ家は救  
完全に向倒壊した。天井との僅  
な隙間に倒壊した。天井との僅  
ばあちやんの救助を開始した。  
あたりは真つ暗闇で隊員の作  
業。作業中何度が警報が出  
て、その度に作業を中断せざる  
をえなかつた。ベッドの足  
を切断し、三十秒ほど隙間を  
でけた。

前例にとらわれないこと  
津波は必ずしも引き波の後  
に来るとは限らない。警報が  
出たらずに高台に避難し、  
解除されるまで戻らないこと  
が大事だと思う。



飯岡津波ひなんタワー完成

平成二十六年十一月十七日、市内で三基目の津波避難タワーが完成した。場所は飯岡郵便局前、元飯岡消防署があつた所で高さは地上十メートル。四基目は富浦地区（神宮寺浜）に同年十二月完成する。

飯岡津波  
ひなん  
タワー



完成

## 自主防災組織 共興地区を守る会

(匝瑳市)

匝瑳市共興地区は人口二四  
三〇〇人、約六三〇世帯が暮ら  
している。

二〇一一年三月一日、東  
日本大震災の発生。当時この  
地域の区長を兼ねていた伊  
藤清さんが、会長として地区内に

被害がないか確認に廻った。  
この体験をもとに、海岸に  
も近い共興地区を次の災害か  
ら守るため、自分たちの手で地

区を守る会」の発足となった。  
当初各区長をはじめ一五人  
位だったのが地元出身の議員の  
後押しもあって現在会員は五

六名。会員は全て肩書きなし  
の個人参加である。  
組織構成や役割分担を決め、

地域に根ざした防災訓練等を  
行っている。今では三百人近  
い地域住民も参加してくる

ようになつた。また民生委員  
の協力で介護の必要な高齢者  
や障害者にも呼びかけをして  
いる。



伊藤 清さん

民の防災意識の高さを②リ  
等が必要だという。③行政や議  
員が協力

## 防災キャンプに親子三十 名が参加 海上キャンプ場

(平成二十六年十一月二、三日)

もし地震で電気やガスが止  
まったら、あなただうしま  
すか。屋外で一泊を過ごさな  
ければならないとしたら？  
突然の災害時に役立つ知恵  
や工夫がいろいろの防災キヤ  
ンプに親子三十名が参加しま

した。  
非常食を作って食べる、怪  
我をした場合の救護体験、明  
日にそなえる干物作り。また、  
飯岡津波の被災者・語り部の  
お話を聞き、被災者の生活か  
み芝居「さとうちやんの稲むら  
の火」など、楽しみながら防  
災の大切さを学びました。  
\* (株)塚原緑地研究所、N  
PO光と風 共催



## 浦安市舞浜自治会と交流会

平成二十六年十二月六日

浦安市舞浜自治会との交流  
会が、舞浜自治会集会所であ  
りました。NPO光と風から  
五名が参加しました。

浦安市の液化ガス被害や復旧  
状況等の説明を聞き、後世に  
繋がる液化ガスモニュメント  
地上に突き出した大きなマン  
ドリンを見学。また噴出土砂等

の土塁を築き、その上に植樹  
する緑の防潮堤は、浦安の  
森」として建設中でした。  
(平澤記)

## 社会福祉作文で最優秀賞を 受賞 平成二十六年一月二十九日

大八木 陽さん(飯岡中二年)

旭市社会福祉協議会が募集  
した社会福祉作文で、大八木  
陽さんの「私とボランティア」  
が最優秀賞を受賞しました。  
ボランティア活動の体験をま  
とめたものです。作文の一部  
を紹介します。

「……その日は日曜日とて  
も暑い日でしたが、同級生と『花  
と緑で旭を元気にするプロジェ  
クト』の人たちと一緒に遊歩道  
に花を植えました。遊歩道は、  
港の近くの海津見神社の境内か  
ら灯台近くの道路を結ぶ山登り  
のような道路です。神社の境内  
も遊歩道も少しさびしい景色で  
したが、花を植えることで前よ  
りずっと、景色がよくなった気  
がしました。この道はこの前の  
震災の時のように津波から逃げ  
る為の避難道路にもなると思う  
ので少しでも整備すること、  
いざというときに利用しやすい  
道路になればいいなと思いまし  
た。……」

## 旭市のおかのお土産品(1) 「天の石笛」(あまのいわ ぶえ)、新作完成

古くから伝わる飯岡の民話  
にちなんだ土産品「天の石笛」  
を開発したのは、陶芸家の近  
藤寧さん。まちの復興に役立  
てばと昨年「旭市民芸土産研  
究会」を立ち上げた。  
土は地元の飯岡カベト土(青  
岩)を使った本格的な焼き物。

## 人物紹介(三) 「旭市のおかを津波から守 りたい!」

津波軽減の工事現場で働く  
野口 樹さん(遠藤建設)



震災のあった年はまだ高校  
生だった。家族は無事だった  
がこれをきっかけに自分の住  
むまちを津波被害から守りた  
い、と強く思うようになった。  
卒業論のテーマは「防潮堤の研  
究」でこれはコンクールで金  
賞を受賞した。

地元の建設会社に就職した  
のも、災害が起こった時すぐ  
にその復旧活動に役立ちたい  
と思ったからだ。今の仕事は  
津波軽減のための工事の現場  
監督で大変だが、減災を感じ  
大事だ。ただ復興は減災工事  
だと思う。

彩りも美しく、手作りなので  
音色は微妙に異なる。改良を  
重ねた結果、前作よりも澄ん  
だ高音が出るようになった。  
難を避け、福を呼び込むホイ  
ッスルやストラップとして最  
適である。(値段は五百円から)  
Tel 0479-15715291 陶  
芸ギャラリー&カフェ海音で販  
売中。

## 天の石笛

